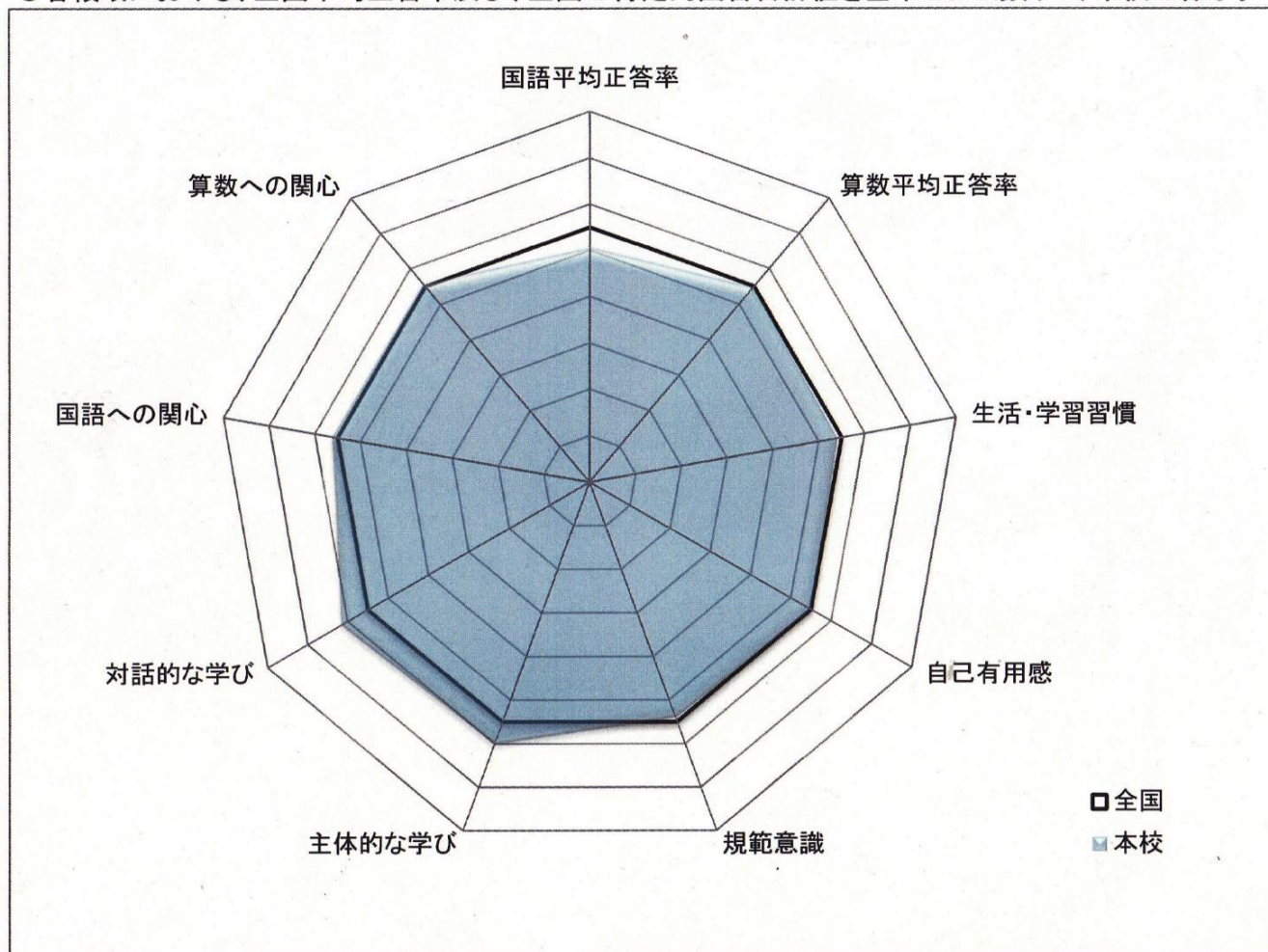


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

○国語の「読み」については平均を上回る結果となった。今後も物語文や説明文の学習では、内容の要旨に注目させ学をやっていく。
 ○国語の「書く」や「漢字」については、正答率を下回ってしまった。
 ○算数の学習については、基礎・基本の知識を確実に身につけさせられた。今後は、児童の身近なことから課題を見つけ、実生活に生かせる力を見につけさせたい。
 ○算数の「図形」や理由を記述する課題には、苦手意識をもっている。

《授業改善のポイント》

○若手の教員が多く、学習規律の確立と家庭学習の充実を図っていく。また、分かる授業を目指し、校内研修の充実を行っていく。
 ○国語の学習では、自分の考えを目的に応じてまとめられるように指導していく。
 ○漢字の学習が苦手なため、小テストを定期的に行ったり、家庭学習では必ず漢字の学習を入れたりし、漢字の学習を充実していく。
 ○算数の学習中に、考えを文章でまとめさせたり、黒板に書かれている立式について説明させたりする学習を取り入れることで、自分の考えをまとめ伝えられる学習の充実を図る。

《チャートの特徴》

チャートの特徴は、ほぼ全国平均値と同じだということだ。一見すると全国平均値と同じなので、良くも悪くもないと判断してしまうところだが、その中身を見てみると課題が見えてくる。この平均値は「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の2つの選択肢で構成されている。「主体的な学び」や「対話的な学び」では、「どちらかといえばそう思う」という回答をした児童が「そう思う」を大幅に上回っている。今後は、「主体的な学び」や「対話的な学び」を国語や算数の学習に限らず、いろいろな教科や学習場面で取り入れていく必要がある。「生活・学習習慣」「自己有用感」「規範意識」については、「そう思う」が「どちらかといえばそう思う」を大きく上回る状況にある。児童一人一人を大切に、この結果を維持していきたい。

《家庭・地域への働きかけ》

○家庭学習を確実に進められるよう、学年だよりや保護者会等で伝えていく。
 ○ホームページに学力テストの結果及び分析を載せることで、地域や保護者の方々に広く学校の現状を理解していただけるように取り組んでいる。

平成31年度 児童・生徒の学力向上を図るための調査結果 課題分析表 (小学校)

教科ごとの「教科の観点」における平均正答率の比較

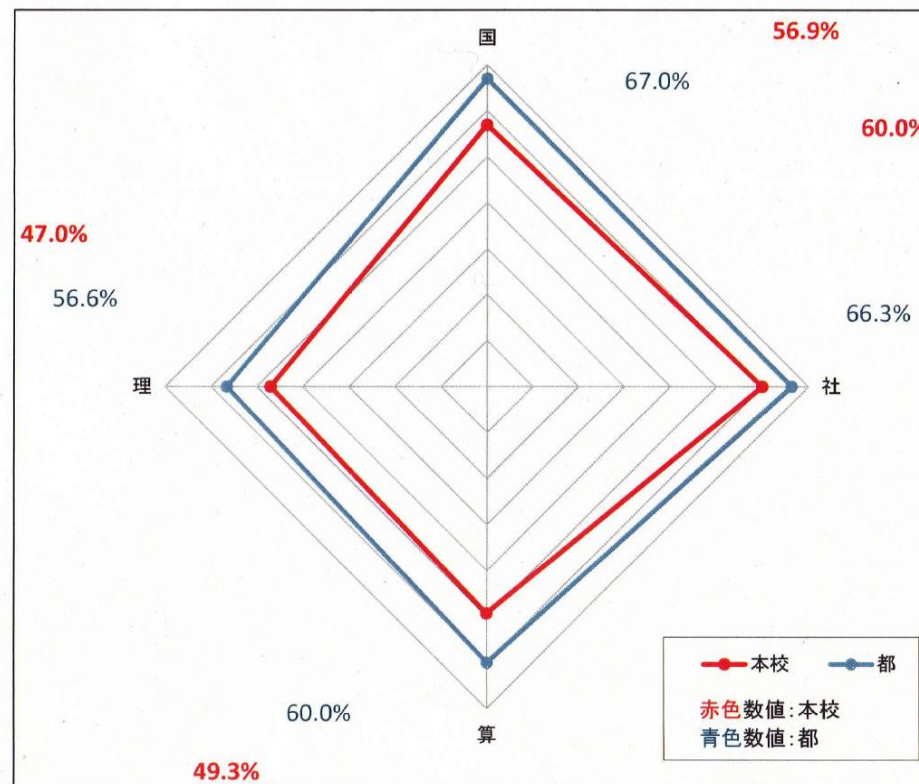
鹿本小学校

国語	教科の観点				教科の合計
	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	
東京都	65.9%	70.9%	67.1%	65.9%	67.0%
本校	50.5%	64.8%	57.1%	55.1%	56.9%
都との差	-15.4	-6.1	-10.0	-10.8	-10.1

社会	教科の観点			教科の合計
	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用 の技能	社会的事象について の知識・理解	
東京都	63.1%	66.5%	69.8%	66.3%
本校	52.6%	58.7%	68.6%	60.0%
都との差	-10.5	-7.8	-1.2	-6.3

算数	教科の観点			教科の合計
	数学的な考え方	数量や図形について の技能	数量や図形について の知識・理解	
東京都	46.4%	65.2%	67.8%	60.0%
本校	28.6%	57.4%	61.9%	49.3%
都との差	-17.8	-7.8	-5.9	-10.7

理科	教科の観点			教科の合計
	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象について の知識・理解	
東京都	52.9%	66.4%	55.0%	56.6%
本校	40.0%	57.1%	43.9%	47.0%
都との差	-12.9	-9.3	-11.1	-9.6



《都との比較にみる本校の状況》

- ・国語の全体平均では、都の平均より10.1%下回っている。特に漢字を書く問題については、かなり課題が残る状況となっている。また、言語事項についても苦手意識があり、この2つの点で平均値をかなり下げている。
- ・社会の全体平均では、都の平均より6.3%下回っている。特に技能の部分では、複数の資料から課題に答えることや、社会的な事象について思考・判断し課題に取り組むことが苦手であることが分かる。
- ・算数の全体平均では、都の平均より10.7%下回っている。課題として、「数学的な考え方」のポイントがかなり低くなっている。これは、「知識」「技能」を活用した課題への取り組みが苦手であることが分かる。
- ・理科の全体平均では、都の平均より9.5%下回っている。課題として、基本的な「知識・理解」の不足から、それを活用しての学習が苦手なため、「科学的な思考・表現」が低くなっている。

《授業改善のポイント》

- ・国語では、「漢字の読み書き」や「言語事項」に重点をおいて取り組んでいく。ノートを書く際には、既習事項については必ず平仮名で書かせることなく、学んだことを使っていきよう声掛けを行う。「読み」については、登場人物の心情だけを考えさせるだけでなく、友達と意見交換をし、様々な気づきができる授業づくりを行う。
- ・社会では、単元の始めに「なぜ」「どうして」等の疑問をもち、それを追求していける学習計画を立てていく。「技能」では、教科書内のグラフや図等の読み取りを丁寧に指導し、複数の資料から事象を読み取れるように指導していく。
- ・算数の「数学的な考え方」については、課題に取り組ませると共に、友達と考えを伝えあう時間を設けたり、立式した理由を自分の言葉で発表したり、他の友達の立式を説明をさせたりする時間を設けることで、思考を深化させられる授業づくりを行う。
- ・理科は「知識・理解」の確実な定着を行っていく。そのために、児童のもっている事物・現象についてのイメージや素朴な概念、意味づけ・関連付けを大切にし、それを活かしていく授業づくりを行う。

《家庭・地域への働きかけ》

- ・定期的に児童が書いているノートを点検してもらえるように働きかけると共に、状況によってはご家庭で指導していただけるよう働きかける。
- ・社会的な事象について児童に興味・関心をもってもらうため、家庭でニュース等を見ていただき、その内容を話し合っていたる時間づくりをしてもらえるよう働きかける。
- ・毎日、計算ドリルの家庭学習を出しているため、保護者の方に関心をもってもらっていただき、ノートを見てもらえるよう働きかける。
- ・テストの結果についてだけを問うのではなく、問題を一緒に見ていただき、どの様な問題を解いているかに関心をもってもらっていただき、一緒に考えてもらえるよう働きかける。